

令和7年度 附属研究所研究奨励交付金 COC研究(2年目)

# 療養中の子どもの“こころの準備”を支えるための絵本プロジェクト



キーワード：医療絵本、専門職連携、保育士、看護師、協働



発表者：杉野寿子・田中美樹

共同研究者：三浦由紀子・菅原航平・吉田麻美

研究協力者：吉川未桜（下関市立大学）

# 背景と目的

- 本研究チームは、令和2年度より、保育と看護の連携・協働に関する研究を行い、臨床において保育士と看護師の連携・協働には課題が生じていることを報告した。
- この課題に対し令和5年度から、学生時代からの専門職連携教育として、看護学生・保育学生の互いの強みを活かした健康・医療・保健に関する絵本を協同制作する「絵本プロジェクト」に取り組んできた。
- 小児医療の現場では、検査や治療を受ける子どもに対して、子どもの不安や恐怖を最小限にし、子どもの対処能力を引き出すために、様々な専門職が協働しながらその子どもに適した方法で支援を行うことが求められている。
- 医療や保育の現場で使える子どもの医療絵本は少なく、発達段階によってそれぞれの認知・言語能力が異なる子どもに対して、適切な情報伝達や意思確認支援ツールの多くは、臨床の多忙な合間で制作されている現状がある。
- 臨床ニーズに応えた社会貢献並びに学生時代からの専門職連携の学習機会として報告者らの指導のもと保育学生と看護学生が協同して医療絵本の制作に取り組んだ。
- 本研究では、学生による医療絵本の制作過程における課題や成果を検討することを目的とした。

# 本日の報告内容

1. 2023（令和5）年度完成の医療絵本『がんばれ！てんてきマン』と『MRIってなあに？』についての効果検証



2. 2023（令和5）年度完成の絵本制作に参加した学生へのアンケート調査結果



3. 2025（令和7）年度完成予定の医療絵本『エコーけんさってなあに？』の制作報告



# 1. 2023（令和5）年度完成の医療絵本検証

- 2023年度末：2種類の医療絵本完成
- 2024～2025年度：全国81施設に郵送および学会展示。
- 医療絵本の有用性や役割の検討を目的として、臨床の医療従事者（医師・看護師・保育士・放射線技師等）を対象に、絵本の評価、使用後の子ども・保護者の反応などを調査



	(A) 2024年6～8月末	(B) 2025年3～6月末
対象施設等	16施設（九州・近隣県）へ郵送。 協力：3施設、学会参加者	65施設（中国四国～北海道）へ郵送。 協力：7施設
調査協力者	小児医療従事者11名（病棟4名、外来7名） ※絵本利用 <b>2名のみ（看護師・保育士）</b>	小児医療従事者10名（病棟） ※絵本利用 <b>10名全員（看護師・保育士・放射線技師）</b>
対象の子ども	がんばれ！てんてきマン： <b>3～9歳の4名</b> MRIってなあに？： <b>6～9歳の3名</b>	がんばれ！てんてきマン： <b>2～11歳の8名</b> MRIってなあに？： <b>5～11歳の6名</b>

# 子どもと保護者からの感想・評価

A：2024年度調査  
B：2025年度調査

	がんばれ！てんてきマン	MRIってなあに？
子ども	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「私もてんてきマンするよ」「バイキンをパンチ！」などの発言あり、点滴に興味を持ち、点滴を大切にしようになった。点滴について話題をするツールとなり、入院や病気への関心が高まった。(A)</li> <li>・「おもしろかった」「絵がよかった」などの発言があり、点滴についての質問や理解が深まった(B)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おもしろい」と発言。MRIについて話題をするツールとなり、検査への積極的関心を示した。入院や病気についての関心が高まった。(A)</li> <li>・「おもしろかった」との発言や、過去の検査経験を語る様子、ページを何度も開いて楽しむ姿あり。MRIについて質問したり、話題が増え、笑顔が見られる(B)</li> </ul>
保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「分かりやすい」「興味を持った」など肯定的評価。学生が制作していることに感心していた(B)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が制作したことに感心し、「分かりやすい」との評価(B)</li> <li>・子どもの頑張りに寄り添いながら、一緒に聞く姿が見られた。医療者へのお礼の声もあり、保護者とのコミュニケーション促進にもつながった(B)</li> <li>【改善点】</li> <li>・黒背景・宇宙人の描写が不安に感じる可能性。MRIの目的や「何がわかるか」説明があるとよい(B)</li> </ul>

# 医療者からの感想・意見・評価

A：2024年度調査

B：2025年度調査

	がんばれ！てんてきマン	MRIってなあに？
	(A) 病棟3.25点、外来4.3点 (B) 病棟4.0点	(A) 病棟3.0点、外来4.3点 (B) 病棟4.17点
良い評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「<b>ルート</b>の大切さを伝える読み聞かせとしては良い」「<b>発想</b>が良く、子どもにわかりやすい」「<b>てんてきマン</b>がかっこいい」 (A)</li> <li>・子どもに<b>点滴</b>を大切に扱うことを伝えられる (B)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「とてもよく説明していて<b>分かりやすい</b>」「MRIの注点を子どもでも分かるように簡潔にまとめられている」「<b>宇宙人と遊んでいる描写</b>が素敵。検査を受ける子どもたちもそんな気持ちで過ごせたら良い」 (A)</li> <li>・「<b>検査の音・流れ</b>が分かりやすい」 (B)</li> </ul>
改善点・懸念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「<b>てんてきマンのデザイン</b>が怖い」「説明時には、あまり<b>空想</b>の話をしていないので、使いづらい」「<b>点滴</b>の理由を限定しない方が良い」「<b>緑の腕</b>が出てくるページがわかりにくい」 (A)</li> <li>・「<b>バイキン</b>をやっつける」<b>表現</b>が誤解を生む可能性 (B)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「<b>金属</b>に関する説明が少し長い」「MRIを受ける<b>女の子</b>の表情が怖がっている」「<b>磁石くん</b>の表情が意地悪っぽい」「<b>宇宙や宇宙人</b>が出てくるところが怖い」 (A)</li> <li>・「<b>宇宙人</b>が怖く感じる可能性」「<b>検査中必ず眠る</b>わけではなく、<b>表現</b>が難しい」「<b>病院ごと</b>で検査方法が異なるため、使用時に確認が必要」 (B)</li> </ul>
要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「<b>点滴</b>の前に<b>針</b>を刺すことも大事なことを伝えられると良い」「子どもにとって嫌なこと（<b>針</b>が入っていること、<b>腕</b>を動かさないこと）も追加すると良い」 (A)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「説明に合わせて<b>絵</b>をもう少し工夫するとわかりやすくなる」「<b>子ども</b>がこれから<b>経験</b>する<b>事実</b>を正しく伝えてほしい」 (A)</li> </ul>

# 医療絵本検証のまとめ

1. **実践**：多職種連携教育（看護 × 保育）
2. **評価**：絵本を利用した医療者や親子からは高評価
3. **医療絵本の役割**：読み聞かせ後、点滴・MRI検査への質問増加、経験の語り、家族との対話が活発化。医療絵本は、家庭・病棟で“いつでも” “誰でも”使えるツール。子どもの不安軽減・主体的理解を促す「心の準備」ツールとして有用。医療者主導のプレパレーションの補完も可能。
4. **懸念点への対応**：イラストの表情や空想表現などへの危惧から一部厳しい評価もあった。医療絵本はあくまで絵本であり、子どもの想像を豊かにする空想的要素は重要。子どもが怖がった報告はなく、子どもが楽しめることで、むしろ興味・関心を喚起。さらに、適切な導入・対話があれば不安を和らげ、検査をイメージしやすくすると考える。
5. **今後の方向性**：内容精度（医療的正確性）と表現の最適化、PDF・動画などマルチフォーマット化、多言語対応の拡充。効果検証の強化（協力度・鎮静回避等の行動指標）

## 2. 絵本制作に参加した学生へのアンケート調査結果

### アンケートの概要

- アンケート期間：2024年3～4月
- アンケート手続き：絵本プロジェクト参加学生11名に対して、GoogleフォームのQRコードを提示し、以下の5項目について回答をお願いした。アンケートは自由参加とした。

- ①絵本プロジェクトに参加してよかったか。その理由は？
- ②活かすことができた専門性（専攻）は？
- ③お互い理解することや、理解してもらうことが難しいと感じたことは
- ④協同によるメリットや絵本制作を通して学んだことは？
- ⑤この経験が今後どのようなことで役立つと感じるか？

## 2. 絵本制作に参加した学生へのアンケート調査結果

n = 9名（看護学生5名、保育学生4名）

①絵本プロジェクトに参加してよかったですか？

⇒ 9名全員が「参加してよかった」と回答した。

### ①絵本プロジェクトに参加してよかった理由は？

看護学生	他学年や他学科の先輩方とも交流をすることができた。 子どもとの接し方や発達段階などについても看護の領域では触れられない内容について伺え自分の学びに繋がった。
保育学生	それぞれの専門性を活かしながら協力する楽しさを感じることが出来た。特に保育者として、子どもの年齢に合わせた言葉選びを考えることで、自身の専門性を活かすことが出来ていると感じた。

## 2. 絵本制作に参加した学生へのアンケート調査結果

### ②活かすことができた専門性（専攻）は？

看護学生	検査についてなどは助言をすることができた
	小児の実習で学んだことや授業で学んだ <b>糖尿病の知識</b>
保育学生	子どもと大人の顔のつくり（目鼻の位置）、 <b>絵本に適した色、言葉使い</b>
	子どもに伝わりやすい <b>言葉使いや表現</b>

⇒ 保育学生は**子どもへの伝わりやすさ**を大切にし、看護学生は**医療的な知識や描写の正確さ**を大切にしている傾向があった

## 2. 絵本制作に参加した学生へのアンケート調査結果

### ③理解することや、理解してもらうことが難しいと感じたこと

看護学生	それぞれの視点から考えることが大切であると感じた。
保育学生	子どもだと難しすぎるかなと感じる専門的な部分の表現を変えたいが、看護の視点から見ると表現が少し異なっているように感じられるところがあり、意見が衝突した
	医療に関する基本的知識が不足しているため自身の考えに自信が持てず、看護学生に対して問題点を伝えることが難しかった。

⇒多くの学生が**基本的知識の不足**や**視点の違い**による困難を経験しており、協力して乗り越えていた

## 2. 絵本制作に参加した学生へのアンケート調査結果

④協同によるメリットや絵本制作を通して学んだこと	
看護学生	看護学生だけだと、 <b>事実を伝えることに意識しすぎ</b> ていたが、保育の先輩が入ってくれたことによって、 <b>子どもの理解力や言葉遣いについて学べた</b>
保育学生	医療的に正しい知識や描写にすることと、対象年齢の子どもに伝わりやすい絵や文章となるよう意識することの <b>両方の大切さが理解できた</b>

⇒ 双方の学生から協同によって**医療的な正しさ**と、**子どもへの伝わりやすさ**の両面を意識して**バランスを取ることの重要性**を学んだという意見が多く見られた。

## 2. 絵本制作に参加した学生へのアンケート調査結果

### ⑤この経験は今後どのようなことで役立つと感じるか

看護学生

病院内での多職種連携、地域包括ケアでの連携

看護師になったときのチーム医療に役立つと感じました。

保育学生と看護学生の交流が増えると学内での多職種連携につながると感じました。

保育学生

私は児童発達支援センターに就職する予定なので、保育士以外の方と仕事をする機会が多いと思う。他の職種と関わる良い練習になった。

多職種でコミュニケーションをとるとき。

絵本制作などの活動がなくても、看護学部の学生と意見交流をするような授業があれば互いの分野への理解が深まると思います。

## 2. 絵本制作に参加した学生へのアンケート調査結果

⑤この経験は今後どのようなことで役立つと感じるか⇒

- 多くの学生が**今後の多職種連携の際に役立つ経験**になったと評価し、多職種連携をイメージすることができた。
- 多くの学生が**絵本制作を有意義な経験であった**と評価しており、交流への意欲も高まっていた。
- 看護学生と保育学生の協同によって、**医療（看護）と発達（保育）に関する両面からの知識の必要性**を感じていた。

⇒**専門職連携教育の一部として有効であったと考えられる。**

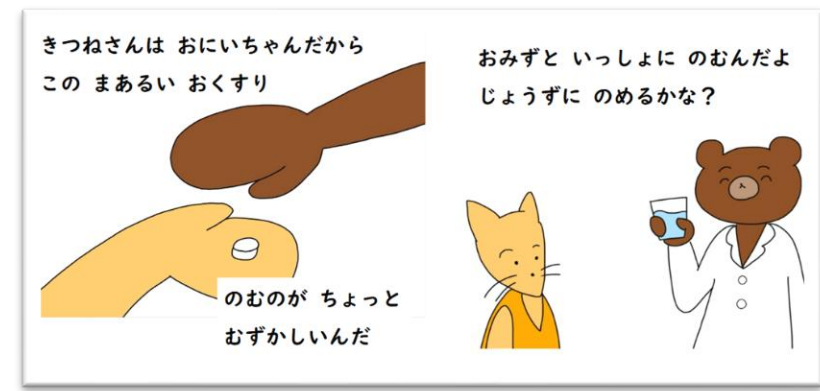
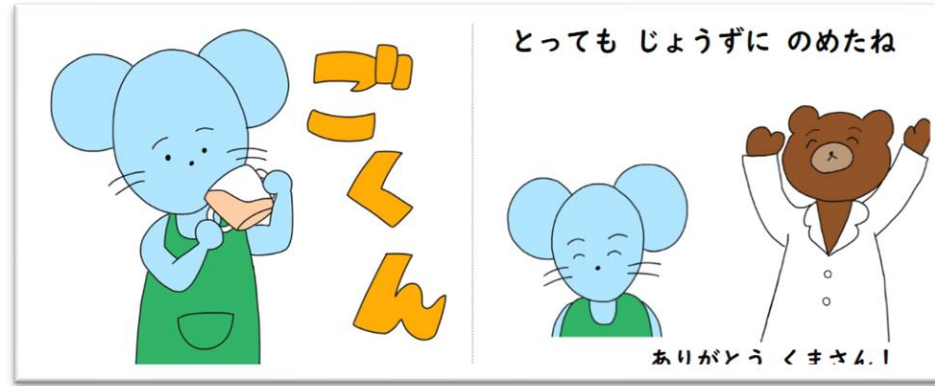
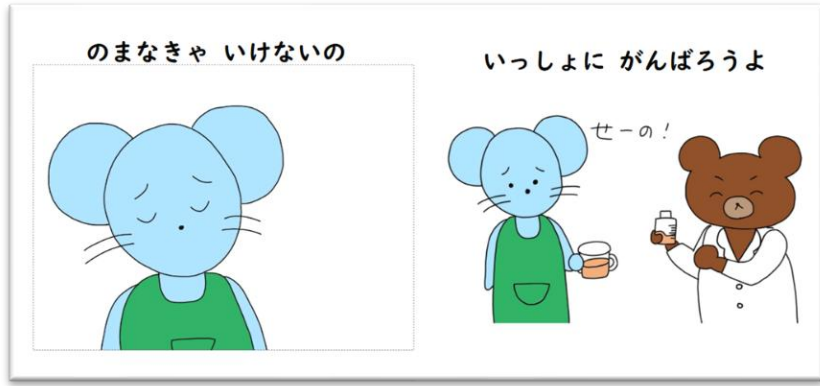
### 3. 2025（令和7）年度完成予定の医療絵本の制作報告



# おくすりどうぞ



- 対象：幼児（2・3歳～）
- 治療のための内服の重要性は高いが、子どもにとって飲みにくく、できれば飲みたくないもの。
- 子どもの認知力では重要性の理解が十分できず、飲まなかったり、吐き出してしまうこともある。



子どもの発達段階の特徴を活かし、水薬⇒粉薬⇒錠剤と、飲むのが難しくなる順番（スモールステップ）のストーリーにした。



子どもの発達段階の特徴（アニミズム）を活かし、子どものたちの大好きな身近などうぶつたちも登場することで、子どもの内服の頑張りを引き出すストーリーを展開



クマが薬剤師の白衣を着ていることで  
白衣への印象を和らげることも意図している。

# エコーけんさってなあに？



- 対象：3～4歳
- エコー検査は、暗く静かな検査室で臥床して行われるものであるが、子どもにとってはなじみのない**非日常の検査**である。特にはじめて**経験する検査**は、子どもにとって**恐怖心や不安**が強く、嫌がることがある。
- 検査の部位や目的によっては、時間を要することもあり、長時間じっとしていることが苦痛になることもある。
- 検査中にアニメ等で気を紛らわす関わりもなされているが、絵本という子どもになじみのある媒体で**検査について楽しみながら知る**ことで、子どもが**見通し**をたて、検査を乗り越えることができるようにストーリーを展開。

エコーけんさは くびやしんぞう  
おなかやせなかをみるけんさだよ  
あおいくんは きょうは  
しんぞうをみるよ



エコーけんさのときは

こんなふうにごすことができるよ

おうちのひとと  
いっしょにおへやに  
はいる



おもちゃをにぎる



どうがをみる



ねむる

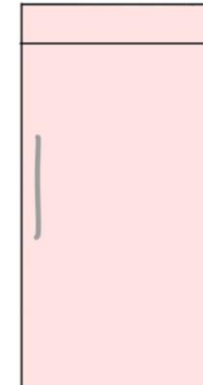


いろいろな どうぐがでてくるよ  
まずは すべりやすくするために  
ジェルをぬるね  
あたたかいのと つめたいの  
どっちにする？

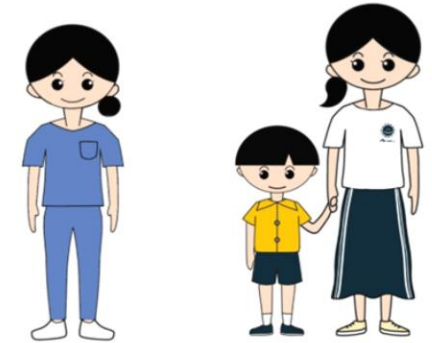


あたたかいの！  
ぬるぬるするね

あおいくん よくがんばったね！  
けんさは どうだった？



ねてるだけで  
こわくないしいたくもなかったよ！  
おねえさん ありがとう！



- 何のために、どんな器具を使ってどのようなことをするのか、検査中はどんな行動をとってよいのか、こども自身が選択できることなど、子どもが体験することを具体的にわかりやすく説明

<エコーけんさのおやくそく>

- ①ちからをぬいてうごかない
- ②なにかあったらおしえてね

こわくてふあんなときは  
おうちのひととてをつないで  
けんさできるよ



<おうちのかたへ>

- ・エコー検査では前開きの服を推奨しています
- ・お気に入りの玩具等を  
持ってきていただいても大丈夫です
- ・お子様が落ち着かない場合は  
おうちの方の膝の上で  
行うことも可能です



- ・子どもが大人（保護者、親、先生など）と一緒に読むことで、子どもだけでなく**大人に対しても、検査への不安や理解を促している。**

# その他の取り組み

1. 福岡県立大学機関リポジトリの活用
  - 完成した絵本のPDF版をアップし、誰もがダウンロードし、広く活用できるようにした。
  - 多言語（英語、韓国語、中国語）のPDF版を作成し、外国籍の子どもと家族/保護者などが活用できるようにした。
2. 音声入り（デジタル音声ツールの利用）のデジタル絵本を作成した。
  - 大人と一緒に絵本を読んだ後、子どもが再度絵本を楽しんだり、見返すことができる。
  - 可能であれば、多言語音声入りデジタル絵本も作成したいと考えている。



ご清聴ありがとうございました。

